【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成22年12月2日(2010.12.2)

【公表番号】特表2010-506627(P2010-506627A)
【公表日】平成22年3月4日(2010.3.4)
【年通号数】公開・登録公報2010-009
【出願番号】特願2009-532608(P2009-532608)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　17/42　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　17/32　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　18/00　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　18/04　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　18/12　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　18/20　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　17/42
Ａ６１Ｂ　17/32
Ａ６１Ｂ　17/36　３３０
Ａ６１Ｂ　17/38　３１０
Ａ６１Ｂ　17/39　３１０
Ａ６１Ｂ　17/36　３５０

【手続補正書】
【提出日】平成22年10月12日(2010.10.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
本発明の他の特徴および利点は、図面と併せて、特定の実施形態の以下の説明としてとらえられる。
したがって、本発明は、以下の項目を提供する：
（項目１）
子宮内に血液貯留を生じさせるステップを含む、子宮反応（ｕｔｅｒｉｎｅ　ｒｅｓｐｏｎｓｅ）を生じさせる方法。
（項目２）
上記子宮内に血液貯留を生じさせるステップは、子宮血液の排出を制限するステップを含む、項目１に記載の方法。
（項目３）
上記子宮血液の排出を制限するステップは、頸部内に移植片を配置するステップを含む、項目２に記載の方法。
（項目４）
上記子宮血液の排出を制限するステップは、子宮下部内に移植片を配置するステップを含む、項目２に記載の方法。
（項目５）
上記子宮血液の排出を制限するステップは、子宮血液の排出をブロックするステップを含む、項目２に記載の方法。
（項目６）

頸部組織に損傷を付与するステップを含む、移植片を受容する頸部組織を調製するための方法。
（項目７）
上記頸部組織に損傷を付与するステップは、この頸部組織に熱エネルギーを付与するステップを含む、項目６に記載の方法。
（項目８）
上記熱エネルギーは、移植片を移植する前に加えられる、項目７に記載の方法。
（項目９）
熱エネルギーは、上記移植片が移植される間に加えられる、項目７に記載の方法。
（項目１０）
上記頸部組織に損傷を付与するステップは、機械的に損傷を付与するステップを含む、項目６に記載の方法。
（項目１１）
頸部を閉塞するための移植片であって、
上端および下端を有する本体と、
この頸部の外へのこの本体の移動を防止する係留機構と、
を備える、移植片。
（項目１２）
上記係留機構は、内部成長を促進する多孔性材料を備える、項目１１に記載の移植片。
（項目１３）
上記係留機構は、球状部分を備える、項目１１に記載の移植片。
（項目１４）
上記係留機構は、放射状に拡張可能なバルーンを備える、項目１１に記載の移植片。
（項目１５）
上記係留機構は、上記本体内に中実のコアを備える、項目１１に記載の移植片。
（項目１６）
頸部を閉塞する方法であって、
内方圧力をこの頸部壁上に置き、それによって、この頸部の内腔を閉鎖する外来性の材料を頸部組織内に挿入するステップ
を含む、方法。
（項目１７）
外来性の材料を挿入するステップは、増量剤を注入するステップを含む、項目１６に記載の方法。
（項目１８）
外来性の材料を挿入するステップは、１つ以上のバルーンを頸部組織内に移植するステップを含む、項目１６に記載の方法。
（項目１９）
頸部の内腔が閉鎖するまで、上記バルーンを膨張させるステップをさらに含む、項目１８に記載の方法。
（項目２０）
上記増量剤は、液体を含む、項目１７に記載の方法。
（項目２１）
子宮移植片内への内部成長を促進する方法であって、
この移植片に多孔性材料を提供するステップと、
この多孔性材料を子宮組織に接触させて配置するステップと、
この子宮組織からこの多孔性材料内への成長を刺激するステップと、
を含む、方法。
（項目２２）
上記子宮組織から上記多孔性材料への成長を刺激するステップは、この子宮組織へ向かう外方圧力をこの多孔性材料上に置くステップを含む、項目２１に記載の方法。

（項目２３）
外方圧力を上記多孔性材料上に置くステップは、上記移植片内に中実のコアを提供するステップを含む、項目２２に記載の方法。
（項目２４）
外方圧力を上記多孔性材料上に置くステップは、上記移植片内の膨張性のコアを膨張させるステップを含む、項目２２に記載の方法。
（項目２５）
上記子宮組織から上記多孔性材料内への成長を刺激するステップは、内部成長を促進する所望の多孔性材料奥行を選択するステップを含む、項目２１に記載の方法。

【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
頸部組織に損傷を付与するための手段を含む、移植片を受容する頸部組織を調製するためのシステム。
【請求項２】
前記頸部組織に損傷を付与するための前記手段は、該頸部組織に熱エネルギーを付与するための手段を含む、請求項１に記載のシステム。
【請求項３】
前記頸部組織に損傷を付与するための前記手段は、機械的に損傷を付与するための手段を含む、請求項１に記載のシステム。
【請求項４】
頸部を閉塞するための移植片であって、
　上端および下端を有する本体と、
　該頸部の外への該本体の移動を防止する係留機構と、
を備える、移植片。
【請求項５】
前記係留機構は、内部成長を促進する多孔性材料を備える、請求項４に記載の移植片。
【請求項６】
前記係留機構は、球状部分を備える、請求項４に記載の移植片。
【請求項７】
前記係留機構は、放射状に拡張可能なバルーンを備える、請求項４に記載の移植片。
【請求項８】
前記係留機構は、前記本体内に中実のコアを備える、請求項４に記載の移植片。
【請求項９】
頸部を閉塞するためのシステムであって、
　内方圧力を該頸部壁上に置き、それによって、該頸部の内腔を閉鎖する、頸部組織内に挿入されるように構成された外来性の材料
を含む、システム。
【請求項１０】
前記外来性の材料は、注入されるように構成された増量剤を含む、請求項９に記載のシステム。
【請求項１１】
前記外来性の材料は、頸部組織内に挿入されるように構成された１つ以上のバルーンを含む、請求項９に記載のシステム。
【請求項１２】

前記バルーンを膨張させて、前記頸部の内腔を閉鎖するための手段をさらに含む、請求項１１に記載のシステム。
【請求項１３】
前記増量剤は、液体を含む、請求項１０に記載のシステム。
【請求項１４】
子宮移植片内への内部成長を促進するためのシステムであって、
多孔性材料を備える移植片と、
該多孔性材料を子宮組織に接触させて配置するための手段と、
該子宮組織から該多孔性材料内への成長を刺激するための手段と、
を含む、システム。
【請求項１５】
前記子宮組織から前記多孔性材料への成長を刺激するための前記手段は、該子宮組織へ向かう外方圧力を該多孔性材料上に置くための手段を含む、請求項１４に記載のシステム。
【請求項１６】
外方圧力を前記多孔性材料上に置くための前記手段は、前記移植片内の中実のコアを含む、請求項１５に記載のシステム。
【請求項１７】
外方圧力を前記多孔性材料上に置くための前記手段は、前記移植片内の膨張性のコアを含む、請求項１５に記載のシステム。
【請求項１８】
前記子宮組織から前記多孔性材料内への成長を刺激するための前記手段は、内部成長を促進する所望の多孔性材料奥行を選択するための手段を含む、請求項１４に記載のシステム。